

教皇フランシスコ、 ベネディクト16世を 思い起こす

2022年の大晦日、教皇フランシスコは、バチカンの聖ペトロ大聖堂で夕べの祈りを行われ、この中で同日午前逝去した名誉教皇ベネディクト16世を思い起こされた。（バチカン・ニュースから）

2023/01/01

12月31日（土）、教皇フランシスコは、バチカンの聖ペトロ大聖堂で、

「神の母マリア」の祭日（1月1日）の前晩の祈り（第一晩課）を主宰された。

過ぎた一年を締めくくるこの集いでは、感謝の賛歌「テ・デウム」が捧げられた。

教皇は説教で、わたしたちの救いのために、おとめマリアから生まれることを通し歴史の中に入ることを選ばれた神の、人間への「優しさ」に満ちたなさり方を観想するように招いた。

そして、教皇は「優しさ」について語る中で、この朝逝去した名誉教皇ベネディクト16世を思い起こし、次のように話された。

「今、優しさについて話しながら、この朝、わたしたちを置いて旅立った名誉教皇ベネディクト16世のことを考えずにはられません。わたしたちは名誉教皇の尊い人柄、これほ

どまでの優しさを感じと共に思い出します。そして、心は大きな感謝でいっぱいになります。それは、教会と世界に彼を与えてくださった神への感謝です。そして、わたしたちのために善を尽くしてくださった名誉教皇への感謝です。特に、退位後のこの年月をはじめ、名誉教皇が示してくださった信仰の証しと祈りに対する感謝です。神だけがその価値と、取り次ぎの祈りの力、教会の善のために捧げた犠牲をご存知です」。

夕べの祈りの終了後、教皇は聖ペトロ広場に赴かれ、プレゼピオの前で祈られた。